

『現代経営学』（秋山義継・藤森保明編著）

三 村 眞 人

標題の著書が、2006年3月に発行された。編著者を含む11名からなる執筆陣の共著である。本書は、現代経営学の基本的な領域についての入門書的な内容となっている。全部で203頁と必ずしも多くないが、執筆者の専門とする領域を中心にどの章も意欲的に取り組まれている。

本書の構成は、次のとおりである。

第1章 企業と経営

第2章 会社法制の現代化

第3章 経営学の発展—計画と統制の理論

第4章 組織論的観点からのCSR

第5章 経営戦略論

第6章 経営分析

第7章 財務官理論

第8章 人的資源管理

第9章 リーダーシップ論

第10章 マーケティング

第11章 環境経営（Sustainable Management）—地球温暖化における環境経営の役割—

本書の執筆陣の一人に、国際経営研究所の客員研究員であり本学経営学部講師の桜井武典氏が加わっている。桜井氏の執筆担当は第11章の環境経営である。限られた紙数の中で、最新の環境経営の問題を上手にまとめるには相応の苦心があったと思われる。ちなみに、桜井氏の執筆に係る第11章の項目構成は、次のとおりである。

- 1 環境経営について
- 2 環境経営の概要

- 3 環境経営の問題点
- 4 新しい環境経営の再構築
- 5 環境経営に関する事例研究
- 6 環境経営における推進力：グリーン・コンシューマーの出現
- 7 本章のまとめ

第11章の筆者の主張は、環境経営を論ずる場合の論点に照らして、「環境保全という課題は市場ベースだけで考えるべきではない」とするところにある。その論拠は、消費者心理が市場価格重視から環境価値重視に置かれることを導くことになることが期待されるからである。

桜井氏は、環境経営の根本的な解決には、消費者の生活向上のために地球にやさしいライフ・スタイルに変革することが重要である主張する。そこではイギリスで生まれたグリーン・コンシューマー（環境保全型消費者）のコンセプトを導入して、日本における環境経営の展開を意図しているのである。

なお、一つだけ感想を述べれば、第11章の章見出しについては、ここだけ英語表記付きで比較的長いサブタイトルがついているのは、テキストとしてはバランスがよくないように思う。単に「環境経営」とした方がよかったのではないか。もっとも、これは編著者のお考えによるものかもしれない。

なお、桜井武典氏は、小林末男監修『現代経営組織辞典』（創成社、2006年）にも執筆参加している。桜井氏の益々のご健筆を期待し、ご研究の発展を祈りたい。